デジタル化・DXのレベル

DXの定義

企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。

出典：経産省デジタルガバナンス・コード

わかりやすいDXの定義

企業活動のデジタル化①と
組織変革②を通じて
新たな価値を創造③し、
豊かな世界を実現すること

デジタル化とDXの3段階

デジタル化やDXという概念は次の3段階に分けられます。

1．Digitization（デジタイゼーション）

アナログ・物理データのデジタル化

2．Digitalization（デジタライゼーション）

デジタル技術を活用して業務プロセスの手順を改善

3．Digital Transformation（DX）

企業活動のデジタル化と組織変革を通じて新しい価値を創造

デジタル化とDXのレベル

DXレベル 0	紙中心
DXレベル 1	Excel活用
DXレベル 2	社内LAN活用
DXレベル 3	クラウド活用
DXレベル 4	コラボレーション
DXレベル 5	業務の自動化
DXレベル 6	新しい価値創造

デジタイゼーション

デジタライゼーション

DX

POWER TRAIN

DXレベル　0　紙中心

旧来の紙とハンコで業務を行っている状態

行政もアナログからデジタルへ

2023年6月14日　「アナログ規制」見直し法が成立

- アナログ規制は、デジタル技術の進展に法律などの整備が追いつかず、業務の効率化を妨げている規制のこと
- アナログ規制、合わせて9669項目を見直すこととなった

DXレベル　1　Excel活用

紙の書類をExcelに置き換えて業務を行っている状態だが、まだ紙で印刷する前提が残っている。

なんでもかんでもExcelで書類を作っている。誰もメンテナンスできない「神Excel」がある。

＊Excelは「表計算ソフト」でありワープロではない。

POWER TRAIN

DXレベル　2　社内LAN活用

社内でのファイル管理はファイルサーバを活用している。

社外とのやりとりは電子メールが活用されている。

大容量のファイルを共有する場合には、USBメモリ等の物理デバイスが利用されている。

社外から社内サーバにはアクセスができない状態。

DXレベル　3　クラウド活用

オンプレミスからクラウドへ
ファイル共有はクラウドのストレージを利用している。USBメモリなどの利用からは解放されている。
基幹システムや業務システムはカスタムシステムからクラウドベースの汎用システムへ移行している。
リモートワークの実施がいつでも可能な状態。

情報基盤のクラウド化が完了している

POWER TRAIN

DXレベル　4　コラボレーション

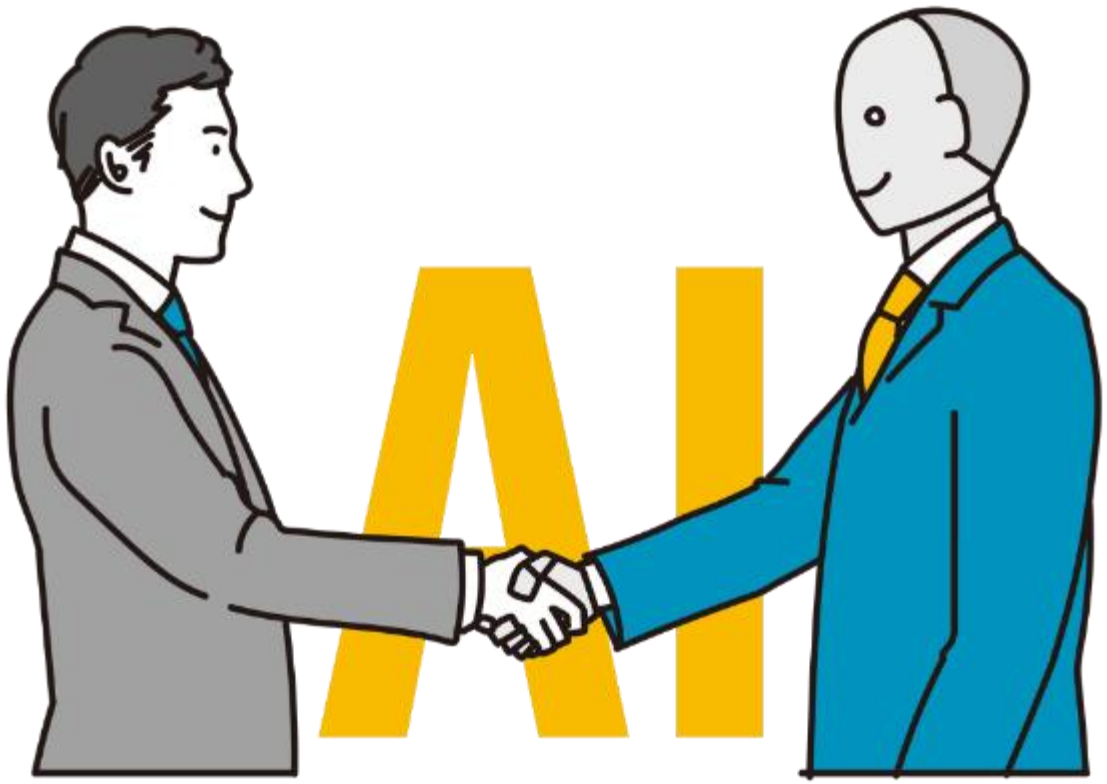
オフィスとリモートの区別なく仕事ができる環境と制度を構築し、運用している状態。SFAやCRM、TeamsやSlack等のクラウドツールやコラボレーションツールを活用し、いつでも、どこからでも仕事ができている。ワーケーションも積極的に活用できている。

働き方も多様になり
制度も柔軟に運用されている

DXレベル　5　アプリ化・自動化

自社で独自のアプリを開発したり、単体のソフトを利用するだけでなく、ソフトを組み合わせ、自動で業務プロセスを処理できている状態。

RPAやAIを活用して定型業務の自動化を行っている状態。



DXレベル　6　新しい価値創造

製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立している状態。